

面積表	
ホール・生涯学習機能	6,960㎡
うち大ホール	3,820㎡
うち小ホール	735㎡
博物館機能	2,640㎡
共用管理 その他機能	3,950㎡
合計	13,550㎡
建築面積	8,676㎡
建ぺい率	38.9%
容積率	60.7%
構造 / 規模	
鉄筋コンクリート造・鉄骨造	
地上3階 地下1階	

(仮称)石巻市複合文化施設基本設計業務公募型プロポーザル

「みんなの交差点」をつくる -クロスする芸術活動と市民活動-

復興の象徴として、地方都市における新たな市民活動の象徴として、従来のハコモノ型ではない、みんなが集う交差点のような場所を提案します。
市民の豊かな日常生活を育む主な活動、「芸術文化活動」と「生涯学習」を2つの大きな軸とし、それらがクロスする構成です。十字形が生み出す4つの外部空間はそれぞれ性格の違う森のように緑豊かな駐車場で、使用頻度に応じてイベント広場や憩いの公園となり、施設内部と有機的に連携します。
運動公園とともに、市民の日常生活の新たな核として、なくてはならない居場所となることでしょう。



こころの復興

新たな活動の核を作るためにも、石巻市民のこころの復興を第一義に考えます。そのためにはこの地域の物語を継承することが大切です。この地の風土・自然・人々の生活の歴史を引き継ぎ、文化・芸術とともに市民が身近に感じ、復興のシンボルとなる施設を創出します。



課題1) 広域での土地利用に対応した敷地の考え方

①広域で考えた土地利用 (全市体)

石巻に、の中心である駅周辺の旧市街、そして大型商業施設の集まる蛇田地区の大きく2つの核があります。この2つの核に加え、本施設が新たに文化・芸術・生涯学習の核として加わります。石巻の生活は文化的創造的豊かさを持つことになり、3つの核の有機的な繋がり、石巻市の復興と充実した未来像を育みます。

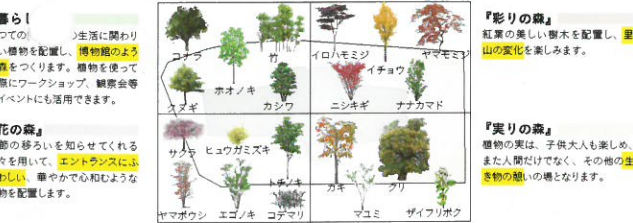


②広域を見据えた土地利用 (敷地周辺)

三方を山々に囲まれ南側には運動公園の緑が広がる敷地は木々に覆われ、今後発展が予想される周囲に潤いを与える先進的な存在となります。豊かな森とともに本施設を計画することで、50年100年後には運動公園や山々の緑と連鎖して、市民活動とあふれる緑が共存する稀有な場所となるでしょう。

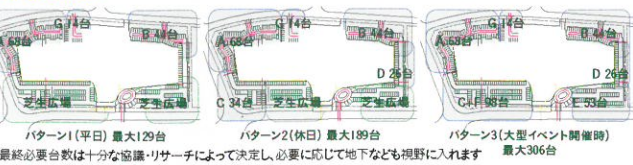
③多世代の市民に親しまれるランドスケープ、生態系に配慮した植生計画

「植物と親しみ、触れ、里山の森を再現するランドスケープデザイン」
この地域のランドスケープは、背後に山並みを望む広範囲な平地です。この施設が1つの小さな里山の丘になるべく、かつてあった馴染みある植物を多種多様、多世代的に継承します。里山の自然同様、人間だけでなく、鳥や昆虫などにもここに集まり、にぎわいの場所となることでしょう。「外構計画」環境形成ガイドラインを踏襲しつつ、敷地全体が「里山の森」となっていくような植栽計画を行います。建物周辺を四つの森に分けそれぞれの森の特性を愉しみながら回遊できます。



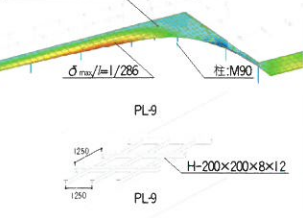
④広域交通を担う自動車道線と安全な歩行者動線の調整

森のような広場に展開する新しい形式の駐車場を提案します。
4つの森を、さらに7つのブロックにわけ、平日から休日、大型イベントの開催時などに応じて、森の広場から、駐車場に変換します。
「花の森」、「実りの森」は、平日は開放的な芝生広場として使い、イベント開催時のみ、駐車場として利用出来るようにします。(駐車場用の特殊土壌を使用)地面はなるべく自然な起伏を設け、自動車の減速を促します。駐車位置から建物周囲に配された緑側テラスに安全にアプローチできます。人々のための広場であることを優先しつつ、必要な時には相当数の自動車が駐車できる計画です。



⑦安全で経済的な基礎と架橋の考え方

「経済材の合理的な構造システム」
経済的な既製杭を効率的に使用します。大・小ホールおよび展示室等の諸室を、RC造による耐震コアとします。耐震コア周囲には、ホワイエやカフェ、エントランスなどの透明性の高い諸室を配置します。これらは、鉄骨ボルト柱のみで支持されていて、耐震コアへ水平剛性により、水平力を伝達させている。周囲を取り囲む下屋部分は、石巻の造船技術を用いた軽快な鉄板構造とコンクリートの合成構造とし構造性能だけでなく、振動や防水性能も十分に確保します。



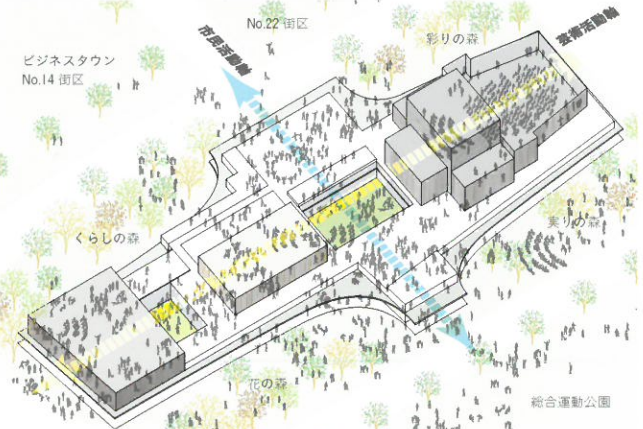
課題2) 複雑な機能を適合させ魅力ある空間を作り出す建物構成

①周辺環境との調和を図り、複合施設のメリットを生かした内外空間の創出

ボリュームを抑えた配置とします。外部にはなるべく木々を配し気軽に立ち寄れる公園のような場とします。建物入り隅部を中心に、相互にシナジーを生み出す、創造的な場となります。

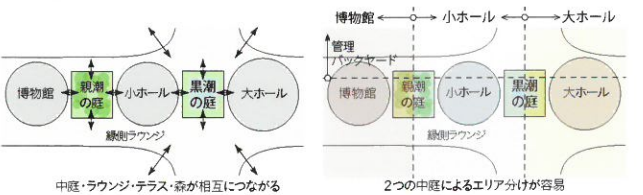
②ホール、生涯学習施設、博物館の相乗効果を誘発し、多様な出会いを生む動線計画

「芸術軸と市民活動軸の交差 - クロスする平面」
大小ホール、博物館をリニアに並べ、直交するように生涯学習施設を配置します。交差部は中庭とし、活動が混ざり合うフレキシブルな場となります。周囲の緑側ラウンジは、緑側テラスを介して外部と連続するとともに、可能な限り日常的な活動の場として開放します。



③持続可能で自律的なマネジメントを可能にする冗長性の高い空間構成

「2つの中庭 - 緑側ラウンジ」
2つの中庭とラウンジは連続的でフレキシブルな空間です。企画や演出に準じて相互の交流を促す場として有効な場となります。人々は様々な居場所をこれらの場に発見し、新たな創造行為に繋げていくでしょう。また、同時にセキュリティラインを中庭によって切ることも可能で、各機能独立した運営、開館時間の設定も可能です。

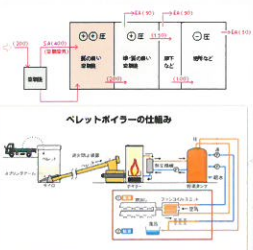


④災害時においても防災機能を果たしうる各空間構成

「全周囲に取り付く庇下空間」
緑側ラウンジの延長となる緑側テラスは災害時の救援活動などで雨風を防ぐ場として有効です。
「大小空間の分りやすい配置」
大小の部屋が十字形平面状に分りやすく配置されているため、災害時に各パートが連携して支援活動を行います。人々は目的行為に迅速に到達できます。

⑧持続可能な環境を実現する熱環境や素材の考え方

この地の特性を生かし、自然通風を最大限利用した環境計画とします。機械空調になるべく頼らない計画とし、開口部なるべく開き、風通しの良い気持ちよい居場所を提供します。環境負荷低減のためエコマテリアルを使用し、居住域空調を基本とします。施設全体としてカスケード空調を取り入れます。長寿命の設備機材、リサイクル素材を極力使います。ペレットボイラーを運用し木材利用に努めます。地下水利用、夜間電力利用、地中熱利用なども積極的に検討し、LCCの低減に努めます。



課題4) その他自由な提案

①「つながる芸術軸」

大小ホール、博物館は各背壁に開閉機構を設けることで、一体的な利用が可能になります。アートフェスティバル時には中庭の中央にアートが置かれ、両劇場からそれをバックに演劇やコンサートが企画されるなど、空間形式を利用して独創性の高い境界を越えた創造行為の場となります。



②「全部が居場所」

演出や展示企画がない時は可能な範囲で施設全体が人々の居場所となります。研修室や練習室、内外部に限らず敷地全体が居場所であり活動の舞台となります。

③みんなで作るみんなの創造的居場所

設計から施工に至るまで、市民みんなと作る姿勢を大切にします。子供達と一緒にワークショップで家具配置を検討したり、施工中と一緒に外壁を貼ったり、木々と一緒に植えたりと、竣工時にみんなで作った意識を持ってよう計画を進めます。



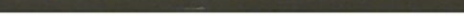
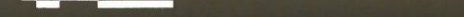
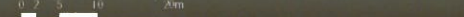
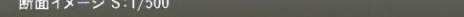
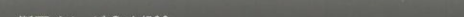
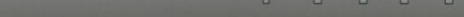
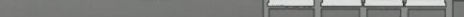
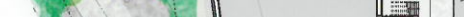
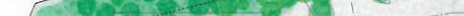
④地元素材の積極的利用

雄勝石や地元産材材などをできる限り使用します。地域の潜在的な素材を発掘し使用します。



⑤貴重な収蔵庫を適切に守る収蔵空間

この地域に古くから伝わる「板蔵」のように杉板を落し込む入れ子構造の収蔵庫とします。

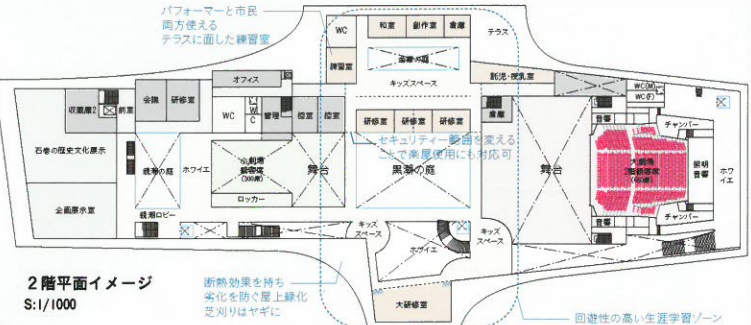
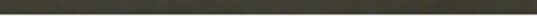
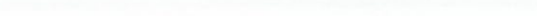
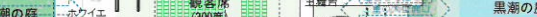


⑥自由で手軽な家具配置

漁師町石巻に相応しく、家具の基本構成をト口箱的な小さなボックスの積み重ねで構成することを提案します。シンプルでフレキシブルなオリジナルなシステムは、設計期間中に、また使い始めてからも市民の声を留意に取り込み、変化する活動に最適に対応できます。

⑦人工地盤上緑化とヤギ放牧

建物の屋根部を緑化することは、建物内部の断熱効果があり、屋根部の劣化を防ぎます。更に、芝刈りをヤギにさせることで、メンテナンス費用の削減、景観としての楽しさを演出する。



⑧生涯学習ゾーンを活用した市民の自発的活動をする創作空間

「施設全体が生涯学習のスペースに」
テラス、ラウンジ、吹抜け、中庭など施設中央から周辺におよぶまで様々な場を可能な範囲で開放することを提案します。市民が思い通りに活動の場を選ぶことができます。

